

# 和's YAMATO

わづ やまと

autumn  
early winter  
2011

秋～初冬号

「坂の上の雲」から学ぶ、明治人の奮闘――

お客様紹介／那須高原ビジターセンターがオープン

江ノ姫たちの戦国――

蓄熱システムは節電対策の切り札●経済アナリスト

森永卓郎氏に聞く

お客様紹介／美咲メディカルコア様(山形県鶴岡市)

宮沢賢治の世界に魅せられて――



茂木紘一 画 画集『尾瀬春秋』より「盛秋」

# 「坂の上の雲」から学ぶ、明治人の奮闘 ロシアの脅威に立ち向かう——日露戦争で薄氷の勝利——

## 「坂の上の雲」のあらすじ

司馬遼太郎の歴史長編小説。四国の松山に生まれた秋山好古・真之兄弟と、真之の親友である正岡子規が主人公で、三人が上京しそれぞれの道を歩み成長していく過程を、明治という枠にはまらない時代と重ね合わせ、日露戦争での活躍など未来に希望を持つて生きた人物像を端々しく描く。



秋山好古  
あきやま よしこ



秋山真之  
あきやま まさゆき



正岡子規  
まさおか しき

司馬 遼太郎 1923(大正12)年～1996(平成8)年  
新聞記者から作家に転じ、「梶(かくろう)の城」で直木賞を受賞。「燃えよ剣」、「龍馬がゆく」、「国盗り物語」などで人気作家となつた。「街道をゆく」などエッセイも多数執筆、文化評論を行つた。

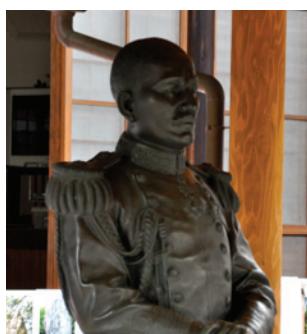
## 国民作家としての「司馬史観」

「坂の上の雲」は司馬遼太郎の代表作のひとつで、昭和43(1968)年4月から昭和47(1972)年8月までの4年半、「産経新聞」夕刊に1296回にわたって連載された長編歴史小説である。

執筆の準備段階として、取材、資料収集などに5年をも費やしたといい、史実に重きを置いた作品となつてゐる。「坂の上の雲」以前の司馬遼太郎は、わずかな手がかりから想像力を膨らませて物語を構成する巧みさを持っており、こうした手法を駆使し昭和41年に完成した「国盜

り物語」などで多くの読者を獲得してきた。しかし、「坂の上」では一転して膨大な資料に裏打ちされた史実に重点を置いた作品となつてゐる。

昭和40年代前半は反体制的な学生運動が盛んであり、こうした時代に明治の軍國主義や日露戦争を詳細に描く「坂の上」が大きな反響を呼んだのも理解できよう。読者は司馬の歴史解釈、いわゆる「司馬史観」を受け入れ、あるいは否定しつつ読み進め、結果、多くの国民の関心的となつた作品といえる。



秋山真之の胸像  
海上自衛隊幹部学校(旧海軍大学校)に置かれていたものの複製。兄の好古を見つめるように建っている。



秋山好古大将像  
生誕地の門を入ると、右手にある好古の騎馬像。戦時中の金属供出で失われた道後公園にあった像を復元した。



子規堂(松山市)  
子規の菩提寺である正宗寺の境内に建つ「子規堂」。子規が幼少時に過ごした家を再現したもの。内部には子規が使っていた机、墨、墨品などが展示されている。昭和20年の戦災で焼失したが、同21年に再建、子規の旧邸が忠実に再現されている。



正岡子規の書斎(復元)  
子規の旧邸が忠実に再現されている。昭和20年の戦災で焼失したが、同21年に再建、子規の旧邸が忠実に再現されている。

司馬は日露戦争を二種の祖国防衛戦争と位置づけ、「坂の上の雲」には、現代では失われた「日本人としてのアイデンティティ」が強烈に描写されている。作品からは、民族としての独立を保つために、国の存亡をかけて戦う明治人の気概を感じることができる。

司馬遼太郎の歴史長編小説。四国の松山に生まれた秋山好古・真之兄弟と、真之の親友である正岡子規が主人公で、三人が上京しそれぞれの道を歩み成長していく過程を、明治という枠にはまらない時代と重ね合わせ、日露戦争での活躍など未来に希望を持つて生きた人物像を端々しく描く。

## ロシア軍は満州、朝鮮半島に駐留



日本軍は明治37年2月に仁川沖海戦で勝利を収めた。

日清戦争の後、清国は朝鮮での宗主権を手放し、日本は朝鮮を支配できる状況になった。しかし、ロシアもまた朝鮮半島での影響力を強めていたこともあり、「朝鮮は日本の防衛線」とする日本はロシアと交渉、朝鮮半島からの撤兵を働きかけるが、ロシアは応じなかつた。さらにロシア軍は日清戦争のあとも清国に居座り、旅順のある遼東半島を支配下に置き、満州や韓国を占領する動きすら見せていた。このロシアの動きにより、当時、清国内に租借地を多数有しているイギリスは、自国の権益をロシアに侵されるという懸念を抱く。か

くして日本とイギリスは、日英同盟の締結によってロシアを牽制することとなる。

しかしロシアは満州から兵を引かず、さらに韓国に砲台を建設するなど、満州・朝鮮半島での影響力を強化。これを放置すれば国の大安全が脅かされると判断し、日本は明治三六（一九〇三）年、ついに軍事的衝突を覚悟するが、国内の資源が乏しく、ロシアより国力も劣る日本は、ロシアとの交戦ではあくまで限定戦争・早期講和を目指していた。

そして講和の仲介者としてアメリカのルーズベルト大統領に期待し、明治三七年（一九〇四）年二月、御前会議にて開戦を正式決定する。

## 日露戦争開戦、初戦は日本軍が勝利

明治三七（一九〇四）年二月、日本は中國大陸に上陸部隊を送り込むため、朝鮮半島の仁川（じんせん）沖でロシアと開戦、砲撃戦の末、ロシア艦の一艦は自沈と自爆し、日露戦争の初戦「仁川沖海戦」で勝利する。

また、東郷平八郎司令長官が率いる連合艦隊の主力は、二月八日夜に旅順口に到着、旅順港内に碇泊中のロシア太平洋艦隊を奇襲し戦果を収めた。しか

し、翌朝にはロシア艦が反撃して決着が着かず、連合艦隊は明治三七（一九〇四）年二月から五月まで、ロシア艦隊を旅順港内に封じ込める作戦「旅順港閉塞作戦」を実行する。

この旅順港閉塞作戦は、旅順港内に碇泊中のロシア軍艦を航行不能にすることが目的で、閉塞作戦は第一次から第三次まで強行された。しかし作戦の目的は達成されず、ロシアの旅順艦隊は日本の連合艦隊を苦しめることとなる。

「坂の上の雲」では、秋山真之と一時下宿をともにして親しく付き合っていた広瀬武夫少佐が、部下の身を案じて閉塞



日露戦争  
→ 日本軍の進路



鴨緑江で初の陸戦  
日本軍第1軍は、明治37年5月に鴨緑江の渡河に成功した。

船上で戦死した様子が描かれている。

## 戦争全体の勝敗を左右した 数々の会戦

日露戦争では、中国大陸各地での会戦と、海上での艦隊同士の砲撃戦が繰り広げられ、日本は自国が各会戦で多くの勝利を収め、有利な条件で講和に持ち込むことを想定していた。また、国力で劣る日本は持久戦になれば不利になるため、可能な限り短期決戦でロシアを破る必要があった。

陸上戦では、満州と朝鮮の境にある川「鴨緑江（おうりょくこう）」の渡河作戦が、鮮やかな日本の勝利となつた。満州を防備するロシア軍に対して、黒木為楨（くろきためとも）大将の師団が、朝鮮側から鴨緑江を渡つて果敢に攻撃。ロシア軍司令官のクロパトキンは、勇猛な黒木に対し大いに恐怖感を抱いたといふ。

満州と旅順要塞の遮断を図ろうとした会戦・「金山・南山の戦い」には、秋山好古は第一騎兵旅団長として参戦した。この時、日本軍はロシア軍の機関銃に苦しめられるが、満州と旅順の分断に成功、ロシア軍が放棄した大連を占領した。その後、ロシアのクロパトキン司令官は、日本軍を内陸部の北方に引き寄せ、気に叩こうとの戦略で後退を繰り返し、明治三八（一九〇五）年二月から始まる「奉天会戦」での激闘へとつながっていく。

### 乃木將軍の第三軍、 旅順攻略に難航

明治三七（一九〇四）年八月七日から、

乃木希典（のぎまれすけ）將軍率いる第三軍が、ロシアの旅順要塞攻略に着手する。参謀長には砲術に長けた伊地知幸介（いぢちこうすけ）が就き、まず砲撃でダメージを与え、次いで歩兵を突撃させた要塞はびくともしない。突撃歩兵は要塞の手前で機関銃に撃たれ屍の山を築き、六日間の戦闘で死者五〇三七人、戦傷者一万八千人を出す大損害を蒙る。

この攻撃の失敗を受け、秋山真之少佐は、旅順港を見渡せる二〇三高地の守りを重視しておらず、一方ロシア軍は二〇三高地の重要性に気づき、要塞化してしまつた。



乃木將軍、出陣の写真  
司馬は乃木を愚将と描いているが、異論もある。



弾痕の残る塹壕

堡壘は周囲の長さが496m、面積9,900m<sup>2</sup>余りで、弾薬庫、兵舎などを備え攻防兼備だった。



日露戦争の主戦場となった東鶏冠山の堡壘跡



東鶏冠山北堡壘の碑



砲弾と機関銃



203高地にある乃木保典（やすすけ）戦死の碑



乃木將軍の息子・勝典（かつすけ・兄）と保典（弟）は日露戦争で戦死した。

## 決死の覚悟で突入、 二〇三高地の激戦

二〇三高地は、旅順港から約七キロの地点にあり、実際の海拔は二〇七メートルという。秋山少佐をはじめとする海軍は、戦争に勝つにはこの高地を奪取することが絶対不可欠との強い信念を抱き、陸軍に総力戦を要請。乃木軍は肉弾攻撃を繰り返した。明治天皇は「成功を望むの情甚だ切なり。なんじら将卒自愛努力せよ」と勅語を発して激励した。現地では敵陣に特攻する「白櫻（しろたすき）隊」が編成され、大規模な突撃が繰り返されたが、成果があがらず、戦死者は二万名を越えてしまった。

乃木軍がはかばかしい戦果を上げられない中、二〇三高地に満州軍総参謀長の児玉源太郎が到着し、自らが指揮をとることとなつた。児玉は大砲の陣容を変更、自軍兵士を被弾させる危険を冒しながらもロシア軍の砲台を砲撃、敵の攻撃力を弱めてから歩兵の突撃を試みて、ついに山頂を制した。

戦争に勝つために、死をも恐れない突撃隊が幾度となく強大な敵・ロシアに立ち向かい、銃弾や大砲に碎かれていく様は実に凄惨を極めた。ロシア軍は日本軍の度重なる突撃に恐れをなし、精神的に追い詰められていたとも考えられる。近

代兵器を備えたロシア軍も、古典的な戦法でひたすら攻める日本軍に、気力負けしているのかもしれない。

## 激戦の末、ついに旅順を陥落

二〇三高地を攻略したことにより、戦局は日本に有利に傾むき、ロシア軍は堡星（ぼうるい）の放棄や防衛線の縮小で戦力が弱まつた。そして、日本軍は旅順市街と旅順港内のロシア艦隊に向け、28日、ステッセル司令官は、旅順要塞のコンドラチエンコ将軍が東鶴冠山（ひがしけいかんざん）で戦士したことにより、ロシア兵の士気は消沈。明治三八（一九〇五年）一月一日、ステッセル司令官は、旅順要塞には兵士や弾薬が十分残つてゐるにも関わらず戦意を失い降伏、ここに旅順攻略作戦は終結した。

当時、降伏文書を携えた軍使が日本軍の司令部に到着した時の様子を、「坂の上の雲」の一節は次のように綴つてゐる。「旅順で死んだ幾万の幽魂がこの部屋に集まつてきただよ、どの幕僚の顔を見ても、喜悦などという表情がなく、ちょうど、なにかに押ししぶされそくなつてゐるような、そういう苦悩がある」。

軍とステッセルの両司令官の会見が行われた。その際、明治天皇の意向でステッセルは帯刀が許され、双方の軍隊を讃えあい、昼食をともにする会見であった。会見後、外国記者たちの要望で記念写真が撮られ、その写真は世界中に配信され、日本の武士道精神が知れ渡ることとなつた。これが本来の戦争のあるべき形とすれば、今日の戦争は狂氣の沙汰と言える。



二〇三高地(爾靈山)の記念碑



ロシア式150ミリメートルカノン砲と記念碑



二〇三高地の入口

## ロシア軍指揮官の 判断ミスに救われる

「ロシア戦争の関が原」と呼ばれる奉天会戦は、明治三八（二九〇五）年三月一日に勃発、本格的な戦闘が始まると、日本軍は防衛戦により戦果をあげることができた。

秋山好古の騎兵第一旅団は、前進を試みるロシア軍に対し、馬から降りて戦い敵の混乱を誘った。しかし近代兵器を装備したロシア軍は、総兵力でも日本を上回り、正面攻撃により戦局を開拓することは難しかった。そのため、前線の軍が満州の総司令部に夜襲攻撃を打診したが受け入れられず、前線と総司令部の感情的対立が生じている。

この段階で、ロシア軍総司令官のクロパトキンが総攻撃を仕掛けてくれば、日本軍の崩壊は免れなかつたと推測される。しかし、クロパトキンは秋山騎兵の支隊わずか三千名がロシア軍から20キロ離れた地点に出現したことから、日本軍の主力が至近に迫つていると誤認、三月七日夜に三十万人以上のロシア軍が一斉に退却を始めた。クロパトキンは退却で敵を奥地に誘い、一気に全滅を図る戦法をとるつもりだったかもしれない。しかし、日本軍は司令官の弱気な判断ミスで窮地を脱し、退却するロシア軍を追撃、ロシア軍は

九万の死傷者と四万人の捕虜を出したながら退却、両軍は奉天北方で対峙しながら、終戦を迎えることとなる。

## バルチック艦隊の戦意は低下 日本は会戦の準備万全

## バルチック艦隊の戦意は低下 日本は会戦の準備万全

ロシアの旅順艦隊が全滅してから、朝鮮半島を取り巻く海の制海権は日本が握っていた。それを奪還する目的で、ロシ

アのバルチック艦隊は本国から50隻の大艦隊で、三万キロを半年間かけてアジア極東に向け航海した。この間イギリス漁船を日本の哨戒船と見誤って誤射したことによりイギリスの反感を買いつける燃料である石炭の積み込みで妨害され、マダガスカルで二ヶ月間足止めされるなどアクシデントが重なり戦意は低下。一方日本軍は艦船の修理を終え、来るべき決戦に備え砲撃訓練を繰り返し、大いに士気は向上していた。

バルチック艦隊は、ロシア皇帝の期待を背負い、日露戦争の戦局を優位に進めるため本国から派遣された。しかし、戦闘に入る前からすでに厭戦気分が高まり、問題を抱えながら明治三八（二九〇五）年五月十四日、ロシアと同盟を結んでいた。

## 日露戦争の天王山 日本海海戦

バルチック艦隊は、長期間の航海で消耗していたとはいえ、史上最大規模の大艦隊であることに変わりは無かつた。海戦の後、バルチック艦隊の戦艦8隻のうち半分でもロシアのウラジオストックに逃がれてしまえば、いやでも戦争は長引き、戦力が限界に近付いた日本軍には不利になる。そのため戦いでは、敵艦を完膚なきまでに沈める完全勝利のみが求められる。

この日本海海戦の最大の焦点は、バルチック艦隊の航行ルートにあった。秋山真之は対馬海峡ルートを想定し、砲撃訓練を行い、万全の態勢で敵を待ち構えていた。しかし、バルチック艦隊は、対馬海峡通過の推測日になつても現れない。敵艦隊は対馬沖ではなく、津軽海峡ルートを通るのではと憶測が流れだが、明治三八（二九〇五）年五月二七日未明、予想通り対馬海峡に現れた。真之はこれで勝利を確信し、大本営に宛て「敵艦隊見ユトノ警報ニ接シ、連合艦隊ハ直ニ出動之ヲ擊滅セントス、本日天氣晴朗ナレドモ波高シ」と打電した。三笠の艦橋には「皇國ノ興廢コノ一戦ニアリ。各員一層奮励努力セヨ」を意味する「Z旗」が掲げられた。



二〇三高地の山頂から眺めた旅順口



苦戦のすえ、第2軍は金州・南山を攻略。  
写真是野戰電信隊の電線架設工事の様子。



旅順の堡壘周辺は両軍兵士の遺体で埋まり、しばしば休戦して味方の遺体を収容した。この当時の戦争は互いにルールを守っていたことを物語る。

## 旗艦「三笠」の敵前大回頭

日本海上では、バルチック艦隊は南から、連合艦隊は北から航行しており、艦隊同士がすれ違いながら砲撃する「反航戦（はんこうせん）」が行われる陣形だつた。反航戦では、戦闘時間が短く、敵艦隊を撃滅することはできない。そこで、敵の射程内にもかかわらず、連合艦隊はUTAーン（大回頭）を始める。大回頭に要した時間は五分間。この間、先頭の三笠は集中砲火を浴びながらも持ちこたえ、バルチック艦隊と同じ方角へ向かいながら撃ち合いとなつた。連合艦隊とバルチック艦隊の距離は約七、〇〇〇メートル、連合艦隊の射撃の精度は高く、わずか三〇分ほどで敵の戦艦や巡洋艦の大半が損傷し、連合艦隊の完全勝利となつた。

## 日露講和で戦争終結

日本海海戦で日本は圧勝し、ロシアに講和を持ちかける絶好のチャンスを得た。戦争による国力の消耗で、戦争継続は不可能という事情もあり、アメリカのルーズベルト大統領の仲介で、ボーツマス講和会議が開かれた。韓国の日本支配、旅順・大連、南満州鉄道の譲渡はロシアから引き出しだが、賠償金の支払い、樺太の譲渡（講和会議直前に日本軍が占領）をめぐつて日露の主張に隔たりがあ

り、交渉は暗礁に乗り上げた。ルーズベルトはニコライ二世に親書を送り譲歩を促し、日本には賠償金はあきらめるよう勧告、樺太の南半分の割譲で妥協するよう求めた。明治三八（一九〇五）年九月五日に講和が正式調印され成立したが、日本の民衆は戦勝にも関わらず得るもののが少ないと不満が爆発、日比谷焼き討ち事件など暴動に発展、東京は戒厳令が敷かれる事態となつた。

有色人種の日本が白人の大国・ロシアに勝つことは、植民地からの脱却を目指すインドなど有色人種の国を勇気づけ、日本への尊敬の念が高まり、独立運動にも広がりを見せることとなつた。日本は「極東の発展途上国」から「ロシアを倒したアジアの雄国」という位置づけに変わるが、その後太平洋戦争へと向かうこととなる。

## 祖国防衛への思いが勝利を呼び込んだ

大団口シニアとの戦争、そして講和での有利な条件を引き出しての終結（勝利）は、日本が欧米列強の植民地にならないために、国を挙げて戦つた成果だつた。陸上、海上での戦闘では微兵で戦地に赴いた兵士は文字通り必死で戦い抜き、国民党は重税に耐えた。

また、戦場以外での活動も、戦勝に大きく貢献する。国家予算年間三億円の七倍にも達した戦費調達のために、戦況をにらみながら欧米を渡り歩き外債の募集に奔走した高橋是清（後に内閣総理大臣）。ロシア国内の反政府勢力を動かし社会不安を助長させ、ロシア国内から戦争への関心を奪う諜報活動によってロシアを追い込んだ明石元一郎（後に台湾総督）など、勝利を諦めない人々の活躍も、大胆な作戦を遂行し、敵のミスを突き、運に恵まれて奇跡に近い難事を成し遂げたことの二因と言えるだろう。

幕末から明治維新、欧米列強の脅威と激動の時代で、極東の弱小国から世界の主要国と肩を並べることができたのは、この日露戦争によるところが大きい。「坂の上の雲」では、明治時代に生きた、日本国民の素晴らしい資質が見事に描き抜かれている。幕末から明治という激動の時代を生きる人たちのひたむきさと情熱は、現代人にも大きな示唆を与える。

（参考文献 NHKスペシャルドラマガイド「坂の上の雲 第三部」NHK出版／徹底検証 日清・日露戦争 文春新書）



水師営北西にある水師営会見所。日本軍第3司令部が置かれていたところで、日露両国の将軍がここで会見した（左端の写真）。中央列左端がレース（ロシア）、その隣から乃木希典、ステッセル（ロシア）、伊地知幸介と並んでいます。

旅順に入城する騎馬隊

1月13日日軍が占領する。

## 正松神社(せいしょうじんじゃ)

玉木文之進、吉田松陰を御祭神とする乃木神社の境内摂社。玉木文之進は吉田松陰の叔父で、松下村塾の開祖、松陰を始め、幕末維新の志士を教育した。

乃木希典も玉木の教育を直接受け、玉木を通じて間接的に松陰の志を受け継ぐ。(乃木が玉木から教育を受けたのは、松陰が亡くなつてから6年後の元治元年・1864年から4年間)

## 乃木神社

乃木將軍は静子夫人とともに、大正元(一九二二)年九月十三日に明治天皇に殉じて自刃した。大正十二(一九二三)年に、乃木將軍の崇敬者により乃木神社が創建された。境内地に隣接して旧乃木邸が建っている。



## 記念艦「三笠」

戦艦三笠は、大正十(一九二三)年にワシントン軍縮会議で廃棄艦リストに載り、大正十二(一九二三)年に帝国軍艦籍から除籍され、大正十五(一九二六)年に横須賀に保存された。昭和二十(一九四五)年に米軍に接收され記念艦の性格を失い荒廃するが、昭和三十六(一九六一)年に復元、昭和四三(一九六八)年には天皇陛下が行幸される。



Z旗近景  
マストには、Z旗を掲げる。Z旗には「皇國ノ興廢コノ一戰ニアリ」の意味が込められている

## 小栗上野介と日露戦争

司馬遼太郎が「明治の父」と言い、ま

た一般に「日本近代化の父」とも言われている小栗上野介忠順(おぐりこうづけのすけ)たまだまさ(一八二七~一八六八)、

東郷平八郎は「わが海軍が日本海海戦で勝てたのは小栗さんのおかげであった」という言葉を残している。小栗の最大の業績は、横須賀に造船所を建設したことであろう。当時の造船所は製鉄所の役割もあり、日本の工業化発展の基礎となつた。大正四年に行われた同造船所五十年周年式典で、大隈重信首相(代理)は小栗を横須賀港開港の大恩人と讃え、後に小栗の胸像が建てられた。小栗は列強国に対抗するため、将来を見据えて将来を軍制改革、仏語学校開設など日本の近代化に尽くした眞の開明派である。

小栗家は一千七百石の旗本で、意見を直言するため幕府要職の任免・罷免を繰り返すが、三十三歳の時に井伊大老に抜擢され遣米使節となり、九ヶ月かけ日本人として初めて地球一周をする。帰国



横須賀ヴェルニー園にある小栗上野介胸像



小栗上野介終焉の地(群馬県権田村)

後は外国奉行を務め、その職務上外圧を経験し、日本の経済・軍事力の弱さを痛感する。その後勝海舟の後任として軍艦奉行となり、フランス人技師ヴェルニーの指導を得て横須賀造船所の建設に着手。小栗の没後、造船所は明治政府に引き継がれ完成することになる(後に海軍工廠に改組)。

幕末、小栗は徳川幕府の存続に尽力するが、反幕勢力への徹底抗戦を唱え罷免、上州権田村(現群馬県倉渕)に隠棲するため移住するが、幕府軍用金秘匿のデマで、およそ一千といわれる暴徒に襲われる。それを撃退した小栗は、武力を持つ幕府きつての主戦論者として、明治政府から謀反人に仕立て上げられ、家来とともに討伐軍に斬首されるのである。

最後まで徳川幕府を支え、日本の将來を案じ数々の改革を行つた悲運の武士、小栗上野介。

日露戦争を語る時、日本近代化の基礎を築いた小栗上野介の功績を忘れてはならない。

海軍の基礎を作った

二八五丁九三



# 日露戦争 関連年表

| 年号             | 月日    | 事項                                 | 年号             | 月日   | 事項                                 |
|----------------|-------|------------------------------------|----------------|------|------------------------------------|
| 明治35<br>(1902) | 3.1   | 戦艦「三笠」竣工                           | 明治38<br>(1905) | 1.1  | 旅順のロシア軍が降伏する                       |
|                | 9.19  | 正岡子規が死去                            |                | 1.5  | 乃木希典とステッセルが水師営で会見                  |
|                | 2.4   | 対露交渉を中止                            |                | 1.22 | ロシアのサントクペテルブルクで暴動が発生<br>(血の日曜日事件)  |
|                |       | 軍事行動への移行を決議する                      |                | 5.28 | 日本海海戦でバルチック艦隊撃滅                    |
|                | 2.9   | 仁川沖海戦で日本軍が勝利                       |                | 5.31 | 日本政府、アメリカのルーズベルト大統領に<br>日露講和の斡旋を要望 |
|                | 2.11  | 日本政府、ロシアに宣戦布告する                    |                | 6.5  | ルーズベルト大統領、駐露大使に講和を提議               |
|                | 5.1   | 第1軍、鴨緑江渡河に成功                       |                | 6.7  | ニコライ2世、アメリカの講和提案を内諾する              |
|                | 5.4   | 第3次旅順港閉塞作戦を実施するが失敗                 |                | 7.7  | 日本軍、樺太攻撃を開始                        |
|                | 6.20  | 満州軍総司令部が設置される                      |                | 7.31 | 樺太のロシア軍が降伏                         |
|                |       | 総司令官に大山巖、参謀総長に児玉源太郎                |                | 8.10 | ポーツマスで講和会議が始まる                     |
|                | 7.25  | 第3軍が旅順のロシア軍要塞を攻撃し始める               |                | 8.29 | 日露講和が成立                            |
|                | 9.1   | 与謝野晶子が「君死に給ふこと勿れ」を掲載               |                | 9.5  | 日露講和条約調印                           |
|                | 9.4   | 日本軍、遼陽を占領                          |                |      |                                    |
|                | 10.9  | 沙河会戦始まるが決着がつかず、両軍は冬營<br>に入る(沙河の対陣) |                |      |                                    |
|                | 10.16 | バルチック艦隊がリバウ軍港を出港                   |                |      |                                    |
|                | 11.26 | 第3次旅順総攻撃。二〇三高地を攻める                 |                |      |                                    |
|                | 12.5  | 二〇三高地を占領                           |                |      |                                    |



幸徳秋水

幸徳は明治三八（一九〇五）年二月に非戦論を執筆したことにより投獄、明治四三（一九〇〇）年五月に社会主義者の検挙が始まつた「大逆事件」で幸徳は死刑となる。命をかけて人道主義・非戦論を主張した人々の志は、弾圧に耐えて後世に受け継がれることとなる。

幸徳らの活動に理解を示す資本家から資金を借り受け、同年十月十五日、平民新聞を発刊、巻頭には次のように宣言された。

政策上、論調を非戦論から開戦論に転換、先の三名はじめ非戦の論陣を張つてゐた記者は退社し、幸徳、堺は、非戦論及び社会主義を主張する「平民新聞」を発刊する結社「平民社」の立ち上げを計画する。

拳げて軍備を撤去し、戦争を禁絶せん」とを期す」。



の左の日刊『平民新聞社』とその社員たち

# 那須高原ビジターセンターがオープン

国内最大級の那須高原ビジターセンターが11月にオープンしました。センター内の展示室では、日光国立公園那須甲子地域の自然や歴史を紹介し、那須高原の魅力を伝えています。

那須高原ビジターセンターを管理している、環境省関東地方環境事務所那須自然保護官柘植規江さんにお話を伺いました。

アメリカのレンジャー（自然保護官）は自らが自然の中を案内する仕事もしていますが、日本の場合は、デスクワークが多いと思います。大まかにいえば、国立公園の利用の適正化を図ることが仕事で、自然公園法にはどのように自然を守っていくか、利用していくかが定められていて、それに沿った対外的な調整がメインの仕事です。

日本の国立公園は、すべて国の土地ではなく、私有地でも国立公園に指定することができますので、所有者は自分の土地なのに利用を制限されるケースがあります。自然保護を図りながら、多くの方々に自然を楽しんでいただくことも必要なので、そのバランスをとるのが私たちの役割です。



自然保護官の柘植規江さん

平成23年5月にオープンした「那須平成の森」は、天皇陛下のお考えに基づき、御用邸用地の一部を、国民が直接ふれあえる場として作られました。御用邸用地にはほとんど人が立ち入ることが無かつたため、多くの動植物が生息しており、豊かで多様な自然環境が残されています。注目の新しい観光スポットです。

那須高原のある日光国立公園は総面積114.753ヘクタール、群馬県、栃木県、福島県の3県にまたがる火山地帯で、那須甲子（かし）地域は昭和25年に追加指定されました。茶臼岳を中心とした那須連山から、ゆるやかな高原が続いており、変化に富んだ地形をつくりています。公園内は有名な温泉が点在しており、御用邸のある場所としても親しまれています。



来賓者と那須小学校児童によるくす玉開披



「那須余一」と「殺生石」で有名な那須温泉神社



那須高原ビジターセンター内の展示室



来賓祝辞 横光克彦 環境副大臣

# 江～姫たちの戦国～

ワン  
ポイント  
解説  
**4**

徳川秀忠との3度目の結婚以来、子宝にも恵まれ、平稳で幸せな日々を過ごしていた江。しかし、太閤秀吉亡き后、天下人の座をめぐり、豊臣と徳川との関係が次第に悪化。関ヶ原の戦いに始まり、大坂冬の陣、夏の陣と相次いで合戦が勃発。秀吉の側室となつた姉の茶々(淀殿)と江は、奇しくも、戦乱の世の敵同士となつていく――。



徳川家康像

関ヶ原の合戦とは、豊臣家家臣の徳川家康と石田三成の豊臣家家臣どうしの争いともいえよう。豊臣家を守護する筆頭家臣の自覚と実力をもつ三成は、豊臣家から政権を奪おうと策略する家康を打倒するため、全国の大名に決起を促した。関ヶ原では徳川方の勝利に終わ

つたが、これをもつて徳川家康がすぐさま天下を取つた訳ではなかつた。

関ヶ原の戦いから二年後の慶長八(一六〇三)年に、家康は朝廷から征夷大将军に任せられ江戸に幕府を開くが、武家の家格でいえば豊臣家は徳川家の上の摂関家であり、秀吉と淀殿の実子・豊臣秀頼は依然として關白(天皇の代行者)になる資格を有していた。そのため、大阪の豊臣家、江戸の徳川家と、天下を治める権力の二重構造が出現する。

慶長八(一六〇三)年七月、徳川家康将軍就任の四ヶ月後、家康の子・秀忠と江の長女・千姫(当時七歳)が秀頼(当時十一歳)に嫁ぐ。これは、家康が淀殿(茶々・江の姉・秀頼の母)を懐柔するための政

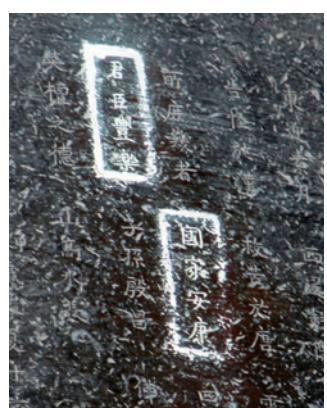
略結婚との見方が一般的である。また、将来、豊臣家を徳川家に服従させる道筋をつけるため、家康の策略とも解されている。しかし、淀殿は秀頼と千姫との結婚を、秀頼が成人した際に、家康が將軍職を秀頼に譲るために解釈し、徳川への警戒心をゆるめる。そして、江とも、再び交流を持つことになった。

徳川家に嫁いだ江と淀殿との関係修復は、脆くも二年で壊れてしまう。その後、慶長十(一六〇五)年、家康は將軍職を秀忠に譲り、徳川の世襲とし、豊臣家を権力の中核から排除、豊臣と徳川の対立は決定的に不可避なものとなる。

## 豊臣秀頼の脅威

かねてより朝廷には、豊臣秀頼を関白に就任させようとする動きがあつたとされ、また、秀頼は戦乱の世で傷ついた寺社の堂塔社殿復興に多額の資金提供を行つたため、民衆からの人気も高かつた。当時、既に高齢であった家康は、若く前途のある秀頼が、いずれ徳川家を脅かす存在になるかもしれないと危惧し、豊臣家を服従させる行動を起こす。それ

が慶長十九(一六一四)年の「方広寺鐘銘事件」である(写真説明を参照)。秀頼を恭順させようとする家康の意向を拒んだ淀殿は、徳川との対決を決意し、時代はついよる大阪冬の陣へと向かう。



鐘の碑文に刻まれた「国家安康」と「君臣豊楽」



方広寺の鐘

## 関ヶ原の敗者と

豊臣が

## 起死回生を図る

### 大阪冬の陣・夏の陣

家康は「方広寺鐘銘事件」で秀頼と淀殿に、豊臣家存続のための条件を突きつける。それは、①秀頼の江戸参勤、②淀殿を人質として江戸に送る、③秀頼が大阪を退去する、のうちいずれかを実行せよというものだった。淀殿は使者を遣わし家康と交渉するが、どの条件もとうてい呑めるものではなく、やがて交渉は決裂。家康はついに武力をもって大坂城の攻略に着手する。淀殿は豊臣恩顧の諸大名に豊臣に加担するよう呼びかけ、家康に対抗することが可能と考えていたが、その意に反し、豊臣に味方する大名はほとんど無かつた。秀吉の死から既に十六年が経過し、徳川幕府が開かれてもう十年余、領地配分により諸大名には徳川恩顧の念が強まり、多くが徳川方にいたのだった。

豊臣軍は大名家に属さない浪人を中心として兵を揃えるしか方法が無く、関ヶ原で敗れ家が取り潰しなった武将たちを集めた。それには、秀吉が蓄えた

太閤遺金を軍資金として使い、全国から徳川に遺恨を持つ武人や武功を挙げたい浪人を召集、その数は十万に達した。参陣した者の中には真田幸村（信繁のぶしげ）、後藤又兵衛、長宗我部盛親（ちようそかべもりちか）など名だたる武将の姿もあった。しかし、対する徳川方に

は全国の諸大名が馳せ参じ、豊臣方の倍、二十万にも達する大軍勢となつた。

## 家康にも大誤算

### 出城「真田丸」

慶長十九（一六一四）年十月、満を持して家康が大坂城攻めの兵を起こし、ついに戦端（大阪冬の陣）が開かれる。大坂城の豊臣方は籠城策で戦うことになり、城の周りには複数の砦が設けられた。関ヶ原の戦いでは遅参して汚名を被つた息子の秀忠は、大阪城への総攻撃を主張するが、家康はこれを退けた。

真田幸村は、大坂城の南側に出城（じろ）の真田丸を築き、徳川軍の軍勢が真田丸に攻撃を仕掛けると、真田隊が果敢に襲撃。そのすさまじい応戦に家康は何度も撤退命令を出し、兵を引くことを余儀なくされた。激戦の結果、徳

大阪冬の陣配置図



茶臼山。左の塔は通天閣



ビル群のなかに見える大坂城天守閣



大阪城の周囲は約13km、総面積は100万津坪にも達したという

川軍の損害は甚大で、大阪方の被害は比較的軽く、明らかに真田幸村の大勝利となり、家康はこの「真田丸」がある限り、大坂城攻略はどうてい不可能と悟る。そのため、家康は大坂城への攻撃を一旦中止し、和議を結んだ後、真田丸を潰す作戦をとることに方針を変更する。

## 家康の首に迫った、名将・真田幸村

家康は豊臣方との和睦に際し、大坂城の本丸のみを残して、一の丸、三の丸を取り壊すことを要求した。これは、真田丸の埋め立ても含んだものであり、和議の成立後、家康は一気に埋め立てを開始する。この作業をいつ、誰がやるかの詳細は和睦の際に決定されていなかった。そのため大坂方は、時間をかけて作業していくれば、家康の寿命が尽き、戦況も変わると推測していた。しかし、家康は具体的な合意の無いまま、強引に堀を埋め立て、大坂城を裸城にすることに成功、豊臣方は以後籠城策をとる戦ができなくなつてしまつた。

慶長二〇(一六一五)年、家康は再び大坂城を攻め、戦国時代最後の合戦・大阪夏の陣が始まった。この際、大坂方は籠城ではなく、野戦で徳川軍に挑み、名将・

真田幸村の戦いぶりが後世に語り継がれることとなる。

幸村は最後の決戦で家康の本陣に突入することを決意し、真田隊全軍を率いて敵の本陣を目指す。大軍勢を擁して家康の本陣は、終始優勢を維持しているため、まさか奇襲を受けるとは想定せず、幸村の正面突破に狼狽した。混乱のつぼに叩き込まれた旗本衆は、右往左往の末に逃げ出し、幸村の槍はあわや家康に届くかとも見えた。しかし、体制を立て直した徳川の軍勢に阻まれ押し返され、幸村は奮戦むなしく討ち死にする。

同年五月七日夕刻、大坂城の天守は真っ赤に燃え上がりついに落城、秀頼と淀殿は自害し豊臣家は滅亡、ここに家康の天下平定が完成した。



大阪夏の陣屏風



安居神社、真田幸村終焉の地



安居神社の境内



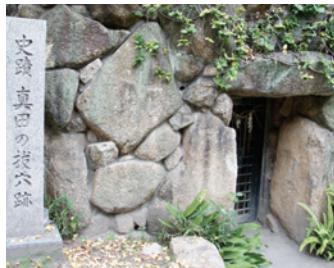
安居神社にある真田幸村の像



大阪城天守閣と茶臼山は約4kmの距離だった



三光神社



三光神社にある真田の抜け穴



三光神社に建つ真田幸村の像

# 真田氏三代の概要

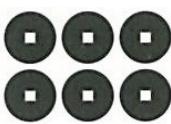
真田昌幸 1547年～1611年

信州の土豪として一地方で領地を守っていた真田氏は、真田幸隆が武田信玄に仕えたことをきっかけに、難攻不落として知られる砥石城（長野県上田市）を攻略するなど戦功をあげ、東信濃と上州にまで勢力を伸ばした。幸隆の後継者と目されていた信綱・昌輝兄弟が長篠の戦いで戦死したため、三男の昌幸が家督を継ぎ、主君の武田家が滅亡後はわずか

年の間に織田、北条、徳川と戦乱の世の情勢を見極めながら主君を変えていく。その間、巧みな外交で領土を拡大しながら、上田城を築き戦国大名としての地位を確保していく。

天正十三（1585）年、徳川家

康は昌幸に沼田領を北条氏に明け渡すように命じるが、昌幸はそれを不服として家康と反目、激



## 六文銭（六連銭）

家紋・月輪七九曜・六文銭は「六道銭」を表し、三途の川の渡し賃として棺に入れるもので、武士が戦いに挑む時は、生きて帰れぬものという強い意志を表している。

怒した家康は真田氏の上田城を攻めるが、変幻自在な策略で徳川の大軍を破り、天下にその武名を知らしめることになった。

豊臣秀吉の没後、関ヶ原の戦いでは、昌幸と次男の幸村が石田方、

長男の信之が徳川方となつて戦うことになり、昌幸・幸村父子は

上田城で徳川秀忠軍三万八千を迎撃つ。秀忠を足止めして関ヶ原に遅参させたりと敵を悩ませるが、石田の西軍が敗れると高野山の九度山に配流の憂き日を見る。昌幸は九度山で没するが、幸村は大坂夏の陣で獅子奮迅の活躍をし、家康の首にあと一歩と迫りながら、敵の大軍に取り囲まれて無念の死を遂げる。

その後の真田家は、松代へ移封となるも、絶えることなく存続する。



真田信之 1566年～1650年

昌幸長男。正室は、徳川四天王本多忠勝の娘、小松姫（徳川家康養女）。関ヶ原の戦いでは、

東軍に属して戦い、真田家を存続させる。上田・沼田領から信濃松代に移封された。93歳で没した。

真田幸村 1567年～1615年

昌幸次男。通称は左衛門佐。

初代城主真田信之の夫人である大蓮院殿（だいれんいんだん）は、徳川家の本多忠勝の娘で小松姫と呼ばれていた。家康は小松姫を養女として天正十七（1579）年に信之に嫁がせ、関ヶ原の戦いでは徳川方となつた信之夫妻は敵となつた父の昌幸、弟の幸村の入城を拒んだ逸話が残つており、小松姫は女丈夫とうたわれた。

沼田城跡（群馬県沼田市）  
沼田城の天守は、真田氏初代城主となつた信之が慶長年間に建造したとされ、城は城主不在となり天和元（1681）年に幕府によつてすべて破却。現在は公園になつてゐる。



沼田城跡（群馬県沼田市）

沼田城の天守は、

真田氏初代城主となつた信之が慶長年間に建造したとされ、城は城主不在となり天和元（1681）年に幕府によつてすべて破却。現在は公園になつてゐる。

浅井三姉妹(茶々・初・江)略年表

| 年号     | 西暦   | 年齢(江) | 事項  |
|--------|------|-------|---|
| 慶長5年   | 1600 | 28    | 9.15 関ヶ原の戦い。東軍(徳川方)が勝ち、豊臣家に加担した大名は処分される。                    |
| 慶長6年   | 1601 | 29    | 江と秀忠の次女・珠姫、加賀藩主・前田利常に嫁ぐ。同年、江と秀忠の三女・勝姫が生まれる。                 |
| 慶長7年   | 1602 | 30    | 江と秀忠の四女・初姫が生まれ、伯母にあたる初の養女となる。                               |
| 慶長8年   | 1603 | 31    | 2.12 徳川家康、征夷大将軍となり、江戸に幕府を開く。                                |
|        |      |       | 同年、江と秀忠の長女・千姫、大坂城の秀頼に嫁ぐ。                                    |
| 慶長9年   | 1604 | 32    | 7.17 江と秀忠の長男・家光が生まれる。                                       |
| 慶長10年  | 1605 | 33    | 秀忠、第二將軍となる。   |
| 慶長11年  | 1606 | 34    | 江と秀忠の次男・忠長が生まれる。  |
| 慶長12年  | 1607 | 35    | 江と秀忠の五女・和子が生まれる。  |
| 慶長16年  | 1611 | 39    | 江と秀忠の三女・勝姫、福井藩主・松平忠直に嫁ぐ。<br>江と秀忠の四女・初姫、京極忠高に嫁ぐ。             |
| 慶長19年  | 1614 | 42    | 7.21 方広寺鐘銘事件。<br>11.26 大坂冬の陣起ころ。                            |
|        |      |       | 12.19 初が奔走して和睦交渉が成立する。                                      |
| 慶長20年/ | 1615 | 43    | 5.8 大坂夏の陣で豊臣家滅亡。淀、秀頼とともに自刃、享年47。                            |
| 元和元年   |      |       | 初は前日に大坂城を出る。  |
| 元和2年   | 1616 | 44    | 4.17 徳川家康、没。この年、江と秀忠の長女・千姫、姫路新田藩主・本多忠刻に再嫁。                  |
| 元和6年   | 1620 | 48    | 江と秀忠の五女・和子、後水尾天皇の中宮として入内。                                   |
| 元和9年   | 1623 | 51    | 7.13 江と秀忠の長男・家光、第三代將軍となる。                                   |
|        |      |       | この年、江と秀忠の五女・和子、後水尾天皇との間に興子内親王(のちの明正天皇)をもうける。                |
| 寛永3年   | 1626 | 54    | 9.15 江、江戸城西の丸で没。  |
| 寛永9年   | 1632 |       | 1.24 徳川秀忠、没(享年54)。  |
| 寛永10年  | 1633 |       | 8.27 初、京極忠高の江戸屋敷で没(享年64)。<br>12.6 徳川忠長(幼名は国松)、高崎城で自刃(享年28)。 |



徳川忠長の墓(高崎市指定史跡)

徳川忠長は慶長十一(一六〇六)年、徳川一代將軍秀忠の子として生まれ、第二代將軍家光の弟。幼名は国松。忠長は江の寵愛を受けて次期將軍と目されていたが、家光には疎まれていたという。家光の乳母・春日局の画策によって、家光は三代將軍となり、忠長は駿府城五十五万石の大名だったため、通称・駿河大納言と呼ばれている。秀忠の死後、忠長に乱行があつたとして高崎城に幽閉される。高崎城主安藤重長による数度の助命嘆願にもかかわらず、寛永十年(一六三三)に自刃を命ぜられ、二八歳の若さでその生涯を終えた。江が亡くなつて七年後の悲劇だつた。江がこのことを知つたら、大いに嘆き悲しんだに違ひない。忠長が免罪されたのは、四代將軍家綱の時であつた。墓石である五輪塔の総高は、台座を加えて約二三メートル。



大信寺(群馬県高崎市通町75)

大信寺には三代將軍徳川家光の実弟徳川忠長の墓がある。

# 蓄熱システムは節電対策の切り札

## 経済アナリスト 森永卓郎氏に聞く

平成23年の夏、関東地方は電気事業法第二十七条が適用され、産業界・家庭の努力によつて前年比15%以上の削減が達成されました。今夏の節電でも、蓄熱やヒートポンプが威力を発揮したことは論を待ちません。

蓄熱システムの有効利用など、知恵を使った節電について、テレビなどマスコミで活躍し、経済関連の著書を多数出版されている経済アナリスト・獨協大学経済学部教授の森永卓郎先生にお話を伺いました。聞き手は西村常務取締役です。(取材日:平成23年9月13日)

**西村** 森永先生は蓄熱システムの積極的な利用を提倡されています。しかし、蓄熱システムはまだまだ普及していないのが現状です。

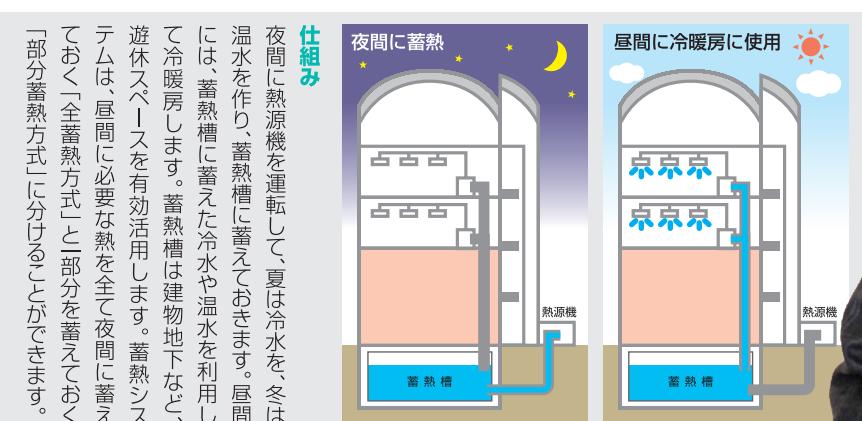
**森永教授** ヒートポンプや蓄熱システムは、一口でいふと地味な存在なのです。メディアが何を取り上げるかというと、たとえば太陽光発電、風力発電で、これらは新技術のイメージがあることに加え、目で見てわかりやすいのです。今まで見てわからずいのです。今までと違うエネルギー・システムということがはつきりわかる。それに引き換え、ヒートポンプや蓄熱は裏方といふか、たいていの場合、箱の中に入つている。すじがないことならぬ。今年の夏は、日本

で初めて電気が使えないという事態が発生した。計画停電では、国民生活と企業活動に大きな被害を与えたことは明らかです。今年の夏を乗り切れたからといふところ話ではないと思うのです。たとえば、エアコンが使えないという状態で、国民に大きな苦痛を強いることになつたし、電車は間引き運転をした。東京の効率性といふのは、地下鉄は少なくても1分おきには必ず来るといふことで、とにかく運営がうまくいった。これが、経済や事業活動や下支えしていった。しかしこの夏、は都心でも10分間地下鉄が来ない事態が現実に起つてしまつた。

計画停電の時はもつとひどくて、製造業の工場では、計画停電が起つるかも

### 森永卓郎氏 略歴

1957年生まれ、東京都出身。東京大学経済学部卒、日本専売公社・経済企画庁・JFEJ総合研究所等を経て、現在は経済アナリストとして活躍中。2006年4月より、獨協大学経済学部教授。



夜間に熱源機を運転して、夏は冷水を、冬は温水を作り、蓄熱槽に蓄えておきます。昼間にには、蓄熱槽に蓄えた冷水や温水を利用して冷暖房します。蓄熱槽は建物地下など、遊休スペースを有効活用します。蓄熱システムは、昼間に必要な熱を全て夜間に蓄えておく「全蓄熱方式」と、部分を蓄えておく「部分蓄熱方式」に分けることができます。

良く考えてみれば、私たちは実質をじがないことならぬ。今年の夏は、日本

です。

私の知り合いに視覚障害の方が多い、全盲ではないのですが、白い杖をついて歩かなければならぬほど視力が弱く、今回の節電で地下鉄や地下道は暗になってしまったため、彼にとっては照明が暗くなつたため、彼にとっては眞つ暗になつてしまつました。健常者は照明を落としても見えるからいいのですが、いつホームから落ちるか、怖い思いをしたと聞いています。また、駅のエスカレーターは下りを片づけしから止めたのですが、お年寄りや妊婦さんは上りよりもむしろ下りの階段が怖く、下りのエスカレーターが止まつたことで、やはり弱者にしわ寄せがきてゐるのです。



西村 電力供給方法と使用方法の在り方を見つめなおす時期だとお考えですか。  
**森永教授** エネルギー対策を総合的に考えると、「分散」と「蓄積」を着実に進めることです。今回の電力危機は東京一

止まり、商店が真っ暗になるなど、電気が無いと普通の暮つしができないこと

を思い知られました。

原発の再稼働については意見が分かれていますが、電気事業法には大手電力会社は需要に応じて電力を供給すると書いてあるので、無制限に供給義務を負っているのだと思つていきましたが、そうではないことが、今回明らかになりました。万が一大規模停電が起つれば、経済が壊滅的な打撃を受けるだけなく、国民生活がガタガタになることが、計画停電から電力節減令の流れを見ていました。菅直人前総理が言つたように、再生可能エネルギーが現行の電気代並みで、安定的に大量供給できるかどうか、無理なことは分かり切つてゐる。太陽光発電は曇りや雨ならば出力は急激に落ちるし、風力発電は電気の需要が一番伸びる時期に風が弱まるなど問題山積です。

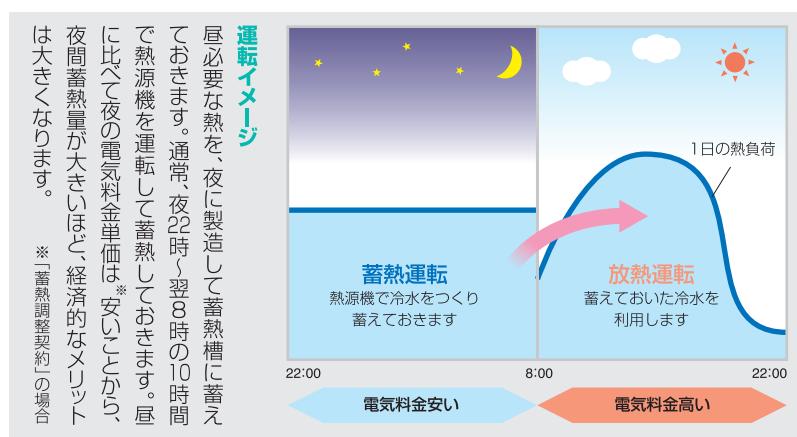
西村 電力供給方法と使用方法の在り方を見つめなおす時期だとお考えですか。  
**森永教授** エネルギー対策を総合的に考えると、「分散」と「蓄積」を着実に進めることです。今回の電力危機は東京一

極集中の弊害が顕著に現れたので、都市機能の分散を進めなければならない。また、「蓄積」はむちろん蓄熱のことですが、蓄熱のコスト面・経済的なメリットに加え、リスクの分散をもたらす効果を真剣に考えるべきなのです。ところが社会は、派手なものや新しいものに関心が高い。ヒートポンプや蓄熱の原理は、技術的に遅れているというのではなく、有效地に利用できる技術です。

初歩的な物理の知識があれば、直接電気を熱に変えると効率が落ちることは、自明の理です。ヒートポンプを動かせば少なくとも3倍の熱効率を得られるので、そのほうが有利に決まつてゐるわけですが、理解が進まないのが現状です。

それに、装置は目に着かないところにひっそりと置かれ、華々しさに欠けるため、活用しようという機運が盛り上がりないという問題があります。本来ならば、専門家がその部分をきちんと語るべきなのです。

真剣に訴えなければなりなのは、「名より実を取る」姿勢です。マスコミは、孫正義さんが太陽光パネルを大規模工場のように張り巡らせるという話題は大きく取り上げますが、それが現段階では「コスト的に見合はないのは分かつて





蓄熱槽建築中の様子

どうしても新しいものに目を向けがちで、既存の技術を高めていく機運は乏しいのが現状でしょうか。

**森永教授** 今年から少し風向きが変わってきたと感じています。一例を上げれば、マツダが「ミニオ」という車種に新エンジンを載せて10・15モードでリッター130キロ走ることが可能になり、これはハイブリッドカーの燃費と同等の数字です。エンジンの圧縮比を高めれば、燃費が向上することは理論的にわかっていること

ですが、高圧縮のエンジンを作るのは簡単なことでは無く、地道な努力を積み重ねてそれを実現したわけです。ハイブリッドカーは複雑極まりない制御をしており、製造ラインも普通の自動車とまったく別です。既存の技術を改善していく技術は、多くのメーカーで行われています。電気製品の分野でも、画期的な発明ではないが、技術の積み重ねによってまったく別の商品になつていく例はたくさんあります。

再生可能エネルギーを創り出す、と言うとかつていいのですが、既存の技術を使つて効率を上げるというのは、ほとんど注目されないのが現状です。

西村 たとえば、蓄熱槽の耐用年数は蓄電池の2倍以上というデータもあります。

東日本大震災からの力月以上経ち、被災地でもない九州で、社会経済に大きな影響を及ぼしかねない電力不足というのは、人災だと思います。手を打たないといけない。しかしこうした話題はあまり取り上げられないのです。

**西村** 電力不足を防ぐには、夏の冷房、冬の暖房時に生じるピークを、蓄熱システムの利用でピークカット、すなわち節電することができですね。

**森永教授** その通りですが、エアコンを消しましょうという節電のほうが強調されてしまうのです。「節電」という国策に協力しない人は、非国民だとう方向に動いてしまう。電気が自由に使えないという先進国は、日本以外ありません。今の日本は、カンボジア、ミャンマーなど途上国のような状況に陥っているのです。苦痛を伴つて解決するのでは無く、知恵を出して技術の力で乗り切ることができるの、とのもどかしさがあります。戦争中の「欲しがりません勝つまでは」と同様の、感情に訴えて統制を強化しようとしているのか、冷静に技術を活用しようという視点が、ほとんど無いことが問題です。

今年の夏に起つた電力危機はまだ終わっていないくて、今年の年末に全国の原発の90%が停止します。来年の春に100%停まります。九州電力では年内に全停止で、関西電力に次いで原発依存度が高い地域といつともあり、大幅な電力不足の発生が懸念されます。

給が確保されるという、先進国にとっては当たり前な状況を、一日も早く取り戻すことが必要です。

**西村** 我慢する前に、知恵を使って解決することが求められています。私どもの蓄熱システムは、蓄電池が1キロワットアワ

ー蓄電するコストの2分の1で、また、一般的な蓄熱システムと比較すると2倍の蓄熱量が可能です。初期投資は7年～8年で回収できます。お陰様で、弊社システムが導入された蓄熱槽は合計で2・5万m<sup>3</sup>となり、お客様に使っていただいています。これは、1万キロワットの発電所に相当しますから、社会的にも貢献していると自負しています。

**森永教授** でも、その100倍、1,000倍の規模で導入されなければならないはずです。イメージ先行の、再生可能エネルギーが万能のような風潮はまずいと思います。

西村 先程先生からお話をありました、エンジン効率の向上を極め環境貢献されている方々の御努力を御手本として、更に蓄熱のよさを發揮できるよう、励んでまいります。

本日はお忙しい中ありがとうございました。

# エネルギー消費量1/2。サステナブルな建築を目指して。

山形県鶴岡市にある医療施設「美咲メディカルコア」(今野俊幸院長)は、2008年4月に開設、ヤマト大温度差蓄熱空調システムをはじめ様々な省エネ対策を取り入れています。省エネ対策の基本は「既存技術の活用」であり、エネルギー消費量は一般の建物の1/2を目指しており、電力負荷平準化を図っています。

「美咲メディカルコア」に導入されている省エネアイテムの数々をご紹介します。

| 施設概要       |                                     |
|------------|-------------------------------------|
| 所在地        | 山形県鶴岡市美咲町25-5                       |
| 建物概要       | 鉄筋コンクリート造4階建 3143.42m <sup>2</sup>  |
| 用途         | 診療所、メディカルフィットネス、メディカルスキンケア          |
| 竣工         | RCB外断熱工法下地50×100タイル直接貼<br>平成20年4月7日 |
| 設計・統括監理    | (有)橋本建築設計室                          |
| 構造設計・監理    | (株)建構造研究所                           |
| 機械電気設備設計監理 | (株)ヤマト                              |
| 施工者        | (株)ヤマト・(株)佐藤工務・山形空調(株)              |

## ■水使用量の削減

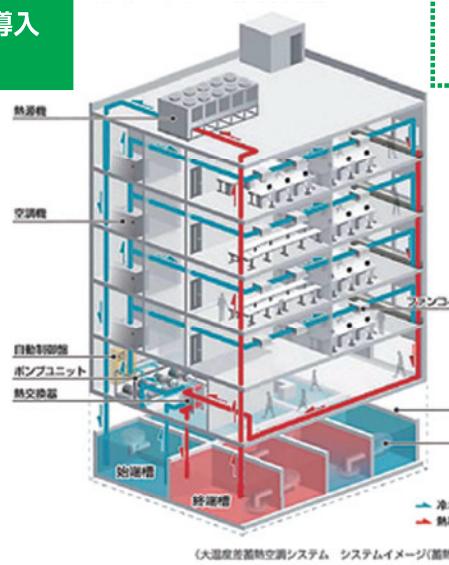


- ◎節水型器具の採用
- ◎擬音装置による節水

## 蓄熱空調、給湯システムの導入 高効率機器の採用



- ◎高効率冷凍機の採用
- ◎電力負荷低減



## ■遠隔管理システム 「TASK PLUS」による運用の最適化



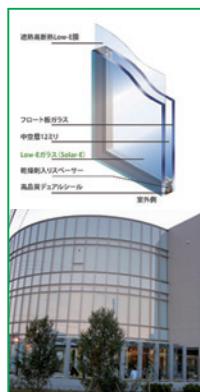
- ◎遠隔管理システム  
「TASK PLUS」活用による省エネ方策の立案・実行
- ◎故障、警報発報

## ■高効率エレベーターの採用



- ◎搬送動力の削減

## ■LOW-Eガラスの導入



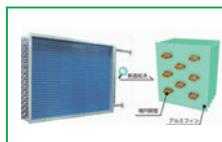
- ◎高断熱、十分な採光
- ◎眺望の確保

## ■昼光利用による照明



- ◎高効率照明
- ◎人感センサー
- ◎照明配列(ライトコントローラー)

## ■利用温度差拡大による 搬送動力の低減



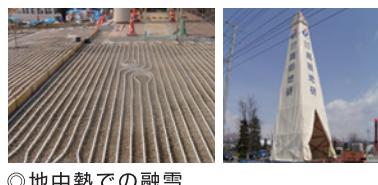
- ◎大温度差ファンコイル
- ◎ファン動力削減
- ◎搬送動力削減

## ■床暖房方式採用による 搬送動力の削減



- ◎輻射熱による快適空間の実現
- ◎冷気侵入への対応

## ■地中熱利用

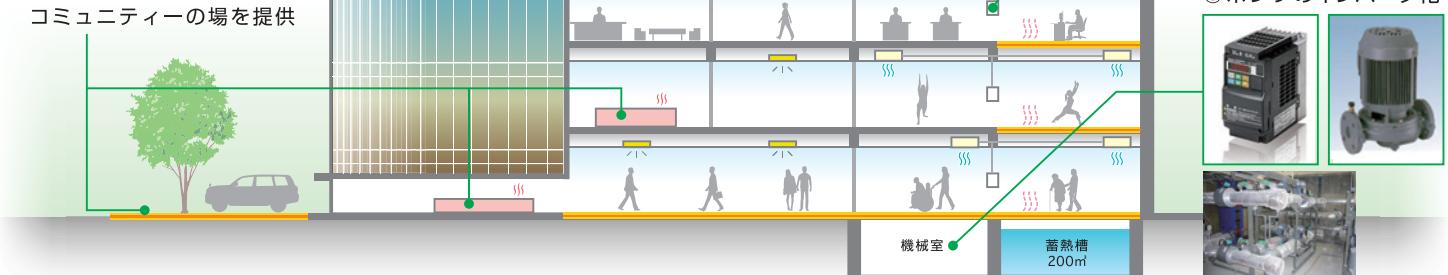


- ◎地中熱での融雪
- ◎自然エネルギー(温泉)の積極的利用
- ◎ストレス解消とコミュニティーの場を提供

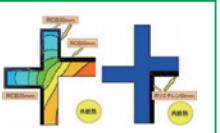
## ■屋上緑化



- ◎冷暖房負荷の軽減



## ■RCB外断熱工法



- ◎冷暖房負荷の軽減

## ■ファンコイル集中コントローラー



- ◎切り忘れ防止
- ◎温度管理

## ■VWV方式による 水搬送動力の低減

- ◎ポンプのインバータ化



# 宮澤賢治の世界に魅せられて

前号(和's YAMATO 2011夏号)で宮澤賢治の血縁にあたる宮澤啓祐氏(花巻商工会議所会頭)と宮澤和樹氏(林風舎代表)にご登場いただきました。今回は、宮澤賢治の世界を描いている人気画家の前田麻理さんに、賢治の魅力について語っていただきます。

## 絵画展で賢治の作品を朗読する

### 前田先生と宮澤賢治の出会いは

私が小学校の頃でした。その時は宮澤賢治という名は知らなかつたのですが、自分が好きな連の作品が、同じ人が書いているということに気づいたのです。それが宮澤賢治さんでした。

— それらはどのような作品だったのでしょうか

「雪渡り」や「どんぐりと山猫」、それと大好きだったのが「やまなし」です。また「よだかの星」は、中学のとき何度も繰り返し読み、声に出して読むほど好きでした。

### — 宮澤賢治の世界を描くことになったのは、どうですか

彼の作品は子供の頃から好きでしたが、作家として共感したのは、「注文の多い料理店・序」です。自分が作品を描くうえでの思いと重なるな、と感動しました。

以前「カンパネラの空」という150号の大作を描いたのですが、これは東北を旅行した時に、こんな澄んだ夜空を見て賢治さんのたくさんの素晴らしい作品も生まれてきたのだろうとなど、想像しながら描いた作品です。

— 宮澤賢治の作品とのかわりは

以前地元にあるギャラリー「市原市水と彫刻の丘」で個展を開いた際に、トーケンショーとして

初めて自分の絵の前で、賢治さんの詩を朗読したのが始まりです。

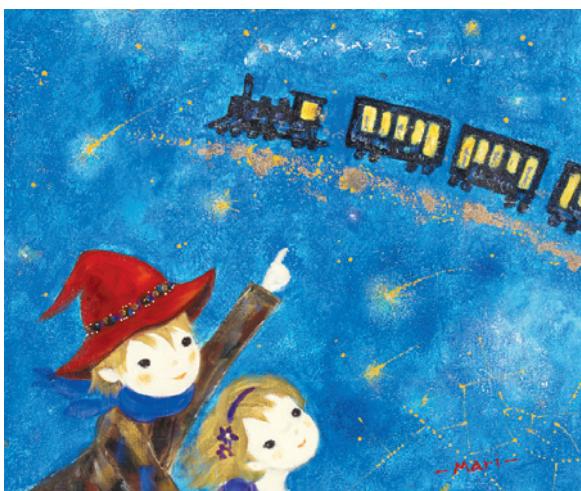
その後、地域の制作者集団『制作舎 翔』の協力を得て、個展会場で自作の詩や、賢治さんの詩の朗読をするようになり、昨年二年間は、各地の個展会場で「銀河鉄道の夜」を朗読ドラマに構成して取り上げました。そして、今年の2月に市原で、10月には東京で「銀河鉄道の夜」の朗読劇に出演し、ジョバンニ役を演じさせてもらいました。

### — 「銀河鉄道の夜」の魅力は何ですか

童話と言えば、「めでたしめでたし」で終わることが多いのですが、賢治さんの作品は、余韻の中で終わります。それは決してハッピーエンドでは無いけれど、読む度に様々なことを感じることができます。10月の東京公演は、大震災の後だからこそ、この作品をやる意味があつたと思います。

### — 今後の活動をお聞かせください

賢治さんの作品や人との出会い、自然や様々な事から、自分自身の感動をより研ぎ澄まし、絵画はもちろん、形にこだわらず、この時代を生きる表現者として、精一杯観てくれる人の心に、何かを伝えていきたいと思っています。



賢治の「銀河鉄道の夜」をモチーフにした「銀河の夜のお話し」

### 前田麻里・略歴

1988年 神奈川県川崎市多摩区に生まれる  
1989年 千葉県市原市に転居  
1997年 創作画人協会新人賞  
1998年 現代具像出品  
2000年 創作画人協会会員努力賞  
2007年 この年より全国各地にて個展

創作画人協会課題優秀賞

東京・赤坂レッドシアター及び市原市市民会館にて絵画と朗読と音楽の会を公演

第41回創作画人協会展・文部科学大臣賞受賞

現在 創作画人協会会員・現代具像会員

*Mari Maeda*



前田麻里さんのホームページ <http://mari.cool.ne.jp/>  
制作舎 翔 ホームページ <http://sarasinat.webry.info/>

株式会社ヤマトPR誌

和's YAMATO 2011 autumn～early winter／第11号 2011年11月 発行(秋～初冬号)(季刊・年4回発行)

発行／株式会社ヤマト(総務部) 群馬県前橋市古市町118

TEL 027-290-1891 FAX 027-290-1896 URL [www.yamato-se.co.jp](http://www.yamato-se.co.jp)

 株式会社 **ヤマト**

支 店／東京、埼玉、栃木、横浜、千葉、高崎

営 業 所／軽井沢、伊勢崎、茨城、太田、栃木市、湘南、東松山、新潟、長野、渋川、川口、東北、多摩、滋賀

関連会社／大和メンテナンス株式会社 株式会社埼玉ヤマト 株式会社ヤマト・イズミテクノス ヤマト・イー・アール株式会社 大和ビジネスサービス株式会社 株式会社荒井興業

わ す や ま と  
「和's YAMATO」の由来

ヤマトの漢字の和、Water & Air の頭文字を合わせてWA、Sはスタート、ヤマトが発信するメッセージです。